

がん特別番組が 医師の抗癌剤処方に与えた影響

久住 英二 松村 有子 湯地 晃一郎¹ 中村 利仁²
別府 文隆³ 岸 友紀子⁴ 大西 睦子⁵ 児玉 有子
堀米 香奈子 田中 祐次 上 昌広

1東京大学医科学研究所内科 2北海道大学医療システム学講座

3Institute of Health Promotion & Disease Prevention Research, USC

4自治医科大学再生医療研究部門 5東京大学血液腫瘍内科



Exploratory Research

The Institute of Medical Science

The University of Tokyo

東京大学医科学研究所

探索医療ヒューマンネットワークシステム部門

はじめに

- 一般に、メディアが世論に与える影響は大きい。
- 近年、メディアは医療に関する内容を多く取り上げるようになってきている。
- 医療には情報の非対称が存在しているおり、多くの国民は医療に関する情報に関心が高い。
- メディアの伝える情報により、国民の受療行動や医師の処方に影響されている可能性がある。
- そこで今回われわれは、医療にメディアが与える影響について検証した。

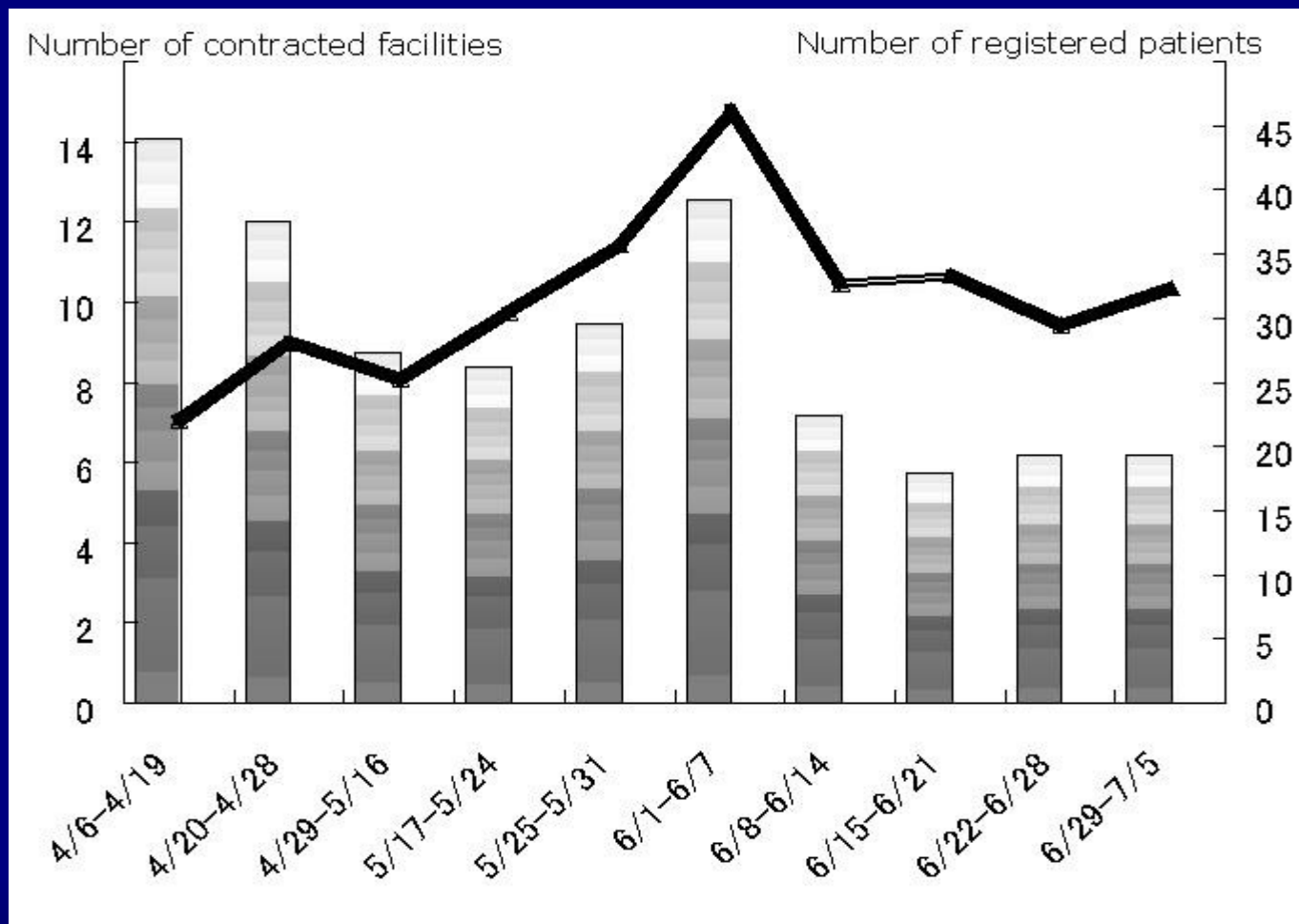


方法

- Oxaliplatin の処方症例数に NHK スペシャル「日本のがん医療を問う」や、各種メディア報道が影響したか調査した。
- Oxaliplatin の処方症例数は、製造販売元であるヤクルト本社のホームページで随時発表された市販後調査の結果を用いた。
- メディア報道は、全国紙4誌（読売、朝日、毎日、日経）や週刊誌（現代、新潮、文春、ポスト、朝日、読売、毎日）の記事、テレビの全国放送キー局（NHK、朝日、フジ、TBS、日テレ）の放送内容を調査した。



結果：契約施設数・登録症例数の推移



結果：症例集積状況と有害事象

- 市販後調査の目標症例数は1,200例であり、販売開始4週目に達成した。これは、当初の予定より44週も早かった。
- 2006年2月7日の時点で、4,019症例の報告書が提出されている。381症例(9.5%)が死亡しており、投与後30日以内の死亡は138症例(3.4%)にみられた。
- Oxaliplatinによる有害事象は22症例(0.5%)で観察された。



結果：抗癌剤に関するメディア報道

メディア	日付	タイトル
NHK	4.30	NHKスペシャル「日本のがん医療を問う」
日経新聞	4.6	ヤクルト大腸癌治療薬を国内で販売開始
読売新聞	4.11	投薬は「組み合わせ」と「さじかげん」
朝日新聞	5.20	暮らしと健康：国内未承認抗癌剤がいわゆる混合診療の対象に
週刊現代	4.30	抗癌剤オキサリプラチン



考察：メディア報道は処方に影響したか

- 施設数は5.17週を底に、登録開始直後と6.1週の2峰性を示した。
- 症例数は5.17以降急激に増加し、6月1日から7日までにピークとなり、その後は漸減した。
- 同時期に行われたアラバ™ (Sanofi-Aventis) の市販後調査では、施設数は販売開始2年後にピークを迎え、その後は漸減している。
- Oxaliplatinの市販後調査では、通常と異なる症例数の増減が見られている。



考察：NHKスペシャルの反響

メディア	日付	タイトル
朝日新聞	7.8	医師400人、NHK に意見書「がん特番、客観性を欠く」
	7.9	がん特番誤解招くと医師ら意見書。NHK はデータ正確と
読売新聞	7.10	NHK がん特番に臨床医らが意見書
毎日新聞	7.13	NHK がん医療番組に意見書—医師ら405人送る
論座	2006.1	潮流 06「臨床医の声」
	2006.3	NHKスペシャル「日本のがん医療を問う」
AERA	2005.8.8	抗癌剤は効くのか？
ブログ		多数
		・ ・



考察:どのメディアが影響したのか

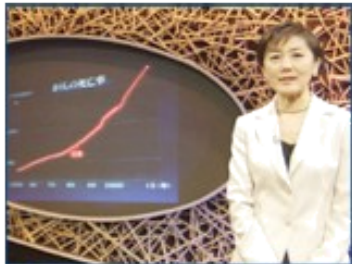
- 読売、朝日新聞の記事はとくに Oxaliplatin に重点をおいておらず、扱いも小さかった。
- 日経新聞の記事は Oxaliplatin を中心としていたが、扱いは小さかった。
- NHK スペシャルでは、Oxaliplatin について重点的に取り上げていた。
- 取り上げ方の大きさから、影響力の大きさは NHK>>日経>読売=朝日と思われる。



NHKスペシャル



シリーズ 日本のがん医療を問う



増え続ける日本のがん死亡率
(キャスター 国谷裕子)

今、アメリカなど先進国
中、右肩上がりの上昇を
一人がどこでも最良のがん
ム”はどうあるべきなのか。
防”検診”は、どうあるべき
「がんサポートキャンペー
がん医療を問う。

第一夜 “救える命”を救うために

第一部 4月30日(土) 19:30~20:45 (75分)

日本のがん医療の大きな課題は施設や医師による医療レベルに大きな格差があることである。背景にあるのが抗がん剤治療などの専門医が不足していること。NHKが行った病院アンケート調査によれば抗がん剤治療を専門医が行っているのはわずか7%だった。日米の病院の比較、スタジオに集まってもらった患者・家族40人の生の声をまじえ、日本の医療現場が抱える課題を検証する。



スタジオに集まった患者・家族の皆さん

第二部 4月30日(土) 21:00~21:59 (59分)



抗がん剤の早期承認を訴える患者たち

国際的に標準薬として認められている抗がん剤が日本では使えない“未承認薬”が大きな問題となっている。背景にあるのが製薬会社まかせの日本の新薬承認システムにある。去年、国は“死亡率の激減”を目標に第3次対がん10ヵ年総合戦略を立ち上げたが、具体的に何を
するのか対策はこれからである。スタジオに国立がんセンター総長、厚生労働省審議官、患者会代表を招き、スタジオの患者・家族をまじえ改革に向けて国はいま何をすべきか、徹底討論する。


視聴率 8.3%



Exploratory Research

The Institute of Medical Science The University of Tokyo


臨床医からの反論





臨床医ネットの
ホームページへ
ようこそ!

14001

2006年1月8日・9日 NHKスペシャル日本のがん医療を問うII放映
臨床医ネット小林代表出演
2006年1月17日 意見書ver1.02アップロード
ご賛同頂ける方は是非ご連絡下さいませ!
論座(朝日新聞社)2006年1・3月号掲載
NHKスペシャル「日本のがん医療を問う」への疑問(論座3月号)

 NHKスペシャル日本のがん医療を問うIIに対する意見書ver1.02(2006/1/17)

 NHKスペシャル日本のがん医療を問うIIに対する提言書(2005/7/7)

 連絡先

意見書:患者とともに納得の医療を目指す臨床医の会

2005年7月7日

NHKスペシャルについて、善処を求めます

我々は、全国の病院に勤務し、臨床現場で診療に取り組んでいる一般の医師を中心としたネットワークです。我が国の医療現場を患者・家族・臨床医・医療スタッフにとって納得のいくものに改めていこうと努力しています。別紙に賛同した405人の氏名を添えます。

去る4月30日、5月1日、NHK総合テレビで放送されたNHKスペシャル「シリーズ 日本のがん医療を問う」、ならびに6月25日NHK教育テレビ放送のETVワイド「手をつなごう がん患者と家族たち」を拝見させていただきました。

まず、NHKの皆様が医療現場にじっくりと関わっていただき、がん治療をテーマにした本格的な番組制作を通じて、この問題の重要性を世の中に発信し、世論の関心を喚起していただきましたことを、心より感謝申し上げます。医療現場には問題が山積しておりますが、この解決にあたっては、現場の努力だけで対応できる限度を超えており、国民各層のご理解とご支援とご協力が不可欠であります。

そうしたなか、このようなテーマであのような本格的番組が放映されますことは、世論の喚起、関係者の奮起を促す観点から、極めて意義深いことと高く評価させていただいております。国民の皆様方が医療に関するご理解を深めていただくためにも、貴協会におかれましても、引き続き医療問題を積極的に取り上げていただけますよう切にお願い申し上げます。

しかしながら、皆様の努力に水を差すようで誠に恐縮ではございますが、今回の番組の内容につきましては、日々臨床の現場にたつ医師として、国民各層のよりの確かつ正確な理解を深め、そのことによって、我が国の医療現場の真の改革を図るという我々の観点からは、懸念すべき内容がいくつか存在し、現に、あの番組を巡って、ご覧になった患者の皆様方をはじめ一般市民のなかに、誤解が生じ、医療現場に混乱が生じておりますことに、憂慮している次第でございます。

こうした誤解とそれに基づく不安を患者の皆様に与えることは、日本のがん治療現場を改善するどころか、日本のがん治療現場に悪影響を与える可能性も感じられ、このたびの意見表明に至った次第です。番組制作の趣旨とご努力には敬意を表しつつも、あえて、我々の懸念を伝えさせていただき、今後の医療報道、医療番組制作において、善処を求めます。



Exploratory Research

The Institute of Medical Science The University of Tokyo

結論：メディア報道は処方に影響した

- メディアによる放送や報道は、国民の受療行動や医療者の処方行動に影響を与えていることが示された。
- メディアを通じて、国民の健康レベルを上昇させることが可能かも知れない。
- 今後は、医療者とメディアの有機的な強力が不可欠である。



Media Doctor

Media + Doctor Australia

featured articles

"Southern Europe's food for thought" THE AUSTRALIAN

The Australian
11 Oct 2006

Rating:  (2½ stars)

EATING a Mediterranean diet and cooking with olive oil can help to prevent Alzheimer's disease, scientists say.

[read more](#)

"Hormone therapy linked to ovarian cancer"

Sydney Morning Herald
11 Oct 2006

Rating:  (3½ stars)

The risk of ovarian cancer is increased in women who use unopposed estrogen for 10 years or more, and in those taking estrogen and progestin for 5 years or more.



news

Health News Review wins a journalism prize

22 Sep 2006

Congratulations to Professor Gary Schwitzer and his colleagues in the USA for winning a...

[read more](#)

Motivational Deficiency Disorder - The Documentary - supplies running low

13 Jul 2006

Our documentary about Motivational Deficiency Disorder - the condition launched on April 1st 2006...

[read more](#)



Exploratory Research

The Institute of Medical Science The University of Tokyo

HOLLYWOOD, HEALTH & SOCIETY

Hollywood, Health & Society ensures that you have the most accurate health information available when you need it, and it's free. We are funded by the Centers for Disease Control and Prevention and the National Institute of Health's National Cancer Institute, through a special grant to the USC Annenberg Norman Lear Center.

RESOURCES

Hollywood, Health & Society provides you with the information you need when you need it. We'll find quick health facts, share case examples and introduce you to experts and real people who can share their stories. Ask us about online health stories, movies or TV shows, health issues, hepatitis, heart disease, brain disorders, antibiotic resistance, social violence, organ transplants, AIDS and more.

RECOGNITION

The Sentinel For Health Award recognizes exemplary TV storylines that best inform, educate and motivate viewers to make choices for healthier and safer lives. Past winners have been storylines about breast cancer, diabetes, HIV/AIDS, and alcoholism.

RESEARCH

We collaborate with community color researchers and entertainment industry executives to study the role that a subset of TV and storylines. We present our findings at national conferences and publish them in professional journals.

HOLLYWOOD, HEALTH & SOCIETY
(800) 283-0676
hhs@usc.edu
www.entertainment.usc.edu/hhs



Hollywood, Health & Society

Hollywood, Health & Society is part of the USC Annenberg Center that provides entertainment industry professionals with accurate and timely information for their craft. It is a high-impact, cross-disciplinary, and interdisciplinary project, funded by the Centers for Disease Control and Prevention and the NIH's National Cancer Institute. The project recognizes the profound impact that entertainment media have on individual behaviors and works to encourage accurate health messages in popular culture through media like television and print news. For more information, please visit www.entertainment.usc.edu.

The Norman Lear Center

The Norman Lear Center is a multidisciplinary research center that explores the implications of the convergence of entertainment, commerce and society. Home to the USC Annenberg School for Communication, the center creates bridges between faculty who study aspects of entertainment, media and culture. Beyond campus, it bridges the gap between the entertainment industry and academia, and between them and the public. For more information, please visit www.lerncenter.org.

USC Annenberg School for Communication

Located in Los Angeles at the University of Southern California, the Annenberg School for Communication is among the nation's leading institutions devoted to the study of communication and their impact on politics, culture and society. Annenberg offers BA, MA and PhD degrees in journalism, communication and public relations. For more information, please visit www.uscannenberg.edu.

The Centers for Disease Control and Prevention

The Centers for Disease Control and Prevention is recognized as the best national agency for protecting the health and safety of people at home and abroad, providing credible information to enhance health decisions and promoting health through strong partnerships. For more information, please visit www.cdc.gov.

National Institutes of Health/National Cancer Institute

The National Cancer Institute is a component of the National Institutes of Health. The National Cancer Institute is a federal government program that supports research and training, including information dissemination and the incorporation of state-of-the-art cancer treatments into clinical practice. For more information, please visit www.cancer.gov.

Get
the facts.
Fast.



HOLLYWOOD, HEALTH & SOCIETY



医学ドラマ(あの有名な ER でも)を通じて
国民に正しい医学知識の啓蒙をはかる試み



Exploratory Research
The Institute of Medical Science The University of Tokyo

ただしい医学知識を伝える試み

ロハス・メディカル
Lohas Medical

2006年 vol.14 **11月号**

Lohas Medical 編集/監理/企画/発行/印刷/販売/代理/販売/代理/販売/代理/販売/代理

「治りたい」と「治したい」を
もっともっと近づける。
医と健康の院内フリーマガジン

今あえて問う
医療は
危険か安全か。

特集2

がんて何？

特集1

改めて考えよう。



「がん」は、医学界では、昔々から「不治の病」として、恐怖の存在として扱われてきた。がんは、生命の危機を脅かす最も恐ろしい病気の一つである。がんは、生命の危機を脅かす最も恐ろしい病気の一つである。がんは、生命の危機を脅かす最も恐ろしい病気の一つである。

がんは、生命の危機を脅かす最も恐ろしい病気の一つである。がんは、生命の危機を脅かす最も恐ろしい病気の一つである。がんは、生命の危機を脅かす最も恐ろしい病気の一つである。

がんは、生命の危機を脅かす最も恐ろしい病気の一つである。がんは、生命の危機を脅かす最も恐ろしい病気の一つである。がんは、生命の危機を脅かす最も恐ろしい病気の一つである。

がんは、生命の危機を脅かす最も恐ろしい病気の一つである。がんは、生命の危機を脅かす最も恐ろしい病気の一つである。がんは、生命の危機を脅かす最も恐ろしい病気の一つである。

がんは、生命の危機を脅かす最も恐ろしい病気の一つである。がんは、生命の危機を脅かす最も恐ろしい病気の一つである。がんは、生命の危機を脅かす最も恐ろしい病気の一つである。



① がんの検査って何を調べているの？

がんの検査は、がんの細胞が体中に転移する前に発見するために、血液検査やCT検査、MRI検査などを用いて行われます。がんの検査は、がんの細胞が体中に転移する前に発見するために、血液検査やCT検査、MRI検査などを用いて行われます。

がんの検査は、がんの細胞が体中に転移する前に発見するために、血液検査やCT検査、MRI検査などを用いて行われます。がんの検査は、がんの細胞が体中に転移する前に発見するために、血液検査やCT検査、MRI検査などを用いて行われます。